



# ともだち


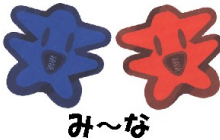

〈編集・発行〉  
府中市立心身障害者福祉センター  
〒183-0026  
府中市南町5丁目38番地  
TEL 042-360-1313  
FAX 042-368-6127  
http://www.f-sinsyo.jp



## おかげさまで、ともだち第100号！



このたび、福祉センター新聞「ともだち」が第100号を迎えることになりました。  
記念すべき今号では、地域のみなさまとともに歩んできた福祉センターの歴史をふりかえります。

年	身障センターのあゆみ
1982 (昭和57)	府中市立心身障害者福祉センターの運営開始 相談事業、機能訓練、作業訓練、生活実習訓練、幼児訓練、入浴事業、緊急一時保護事業、施設の貸し出し、送迎循環バス(2台)の運行で福祉センターの運営が始まりました。 
1993 (平成5)	通所者への給食提供の開始 おいしい給食が始まりました。
1997 (平成9)	福祉センター増改築着工 北側の新館部分ができ、訓練室以外にも配膳室や緊急一時保護室などが増えました。緊急一時保護室が2部屋でき、宿泊も可能になりました。訓練室の引っ越しもあり、OT室が2Fから1Fに移るなど、現在と同じような配置になりました。
2001 (平成13)	地域生活支援事業「み～な」開始 「みんなのみ、未来のみ、南町のみ、みんなの力になれるとい～な」の意味を込めて、「み～な」の名前がつけました。障害を持つ方を多面的にサポートするため、総合相談や講座・講習会が始まりました。 
2003 (平成15)	子ども発達支援センター事業「あゆの子」開始 外来グループが本格的に始まり、子どもの発達支援を目的として、より事業が広がりました。
2004 (平成16)	「ともだち」の人気コーナー『街の風』連載開始 「み～な」の当事者相談員である柁島剛之さんによる連載がスタート。書きためたものが2012年には1冊の本になりました。
2006 (平成18)	「み～な」で障害者就労支援事業開始 障害のある方の「働く」を応援するため、就職やその準備のための支援、仕事を続けるための支援が始まりました。
2008 (平成20)	身障センターの愛称が「きずな」に決定 センターまつりで募集をして決まりました。
2011 (平成23)	訪問支援事業開始 社会とのつながりを持ちたい方を対象に、訪問による支援を始めました。 


**Q. 一年にどれくらいの方がセンターを利用しているの？**

福祉センター開設から30年が過ぎ、事業の広がりとともに多くの方にご利用いただいています。  
〈H24年度の実績(一部)〉


- 作業生活実習訓練
  - ・作業部門 在籍 26名 年間延べ 5074名
  - ・生活部門 在籍 50名 年間延べ 9124名
- 機能訓練
  - 在籍 54名 年間延べ 4044名
- 子ども発達支援センター あゆの子
  - ・外来部門 グループ等利用 1583名
  - ・乳幼児発達相談 1143件
  - ・通園部門 在籍 33名 年間延べ 5592名
- み～な
  - ・地域生活支援 相談件数 6032件
  - ・就労支援 登録 177名

他にも、地域交流イベントや講座・講習・研修、施設貸出など、多くの方に来館、ご利用いただきました。  
ちなみに開設初年度の在籍者数は、すべての訓練事業を合わせて61名でした。

**Q. どうして新聞の名前は「ともだち」なの？**

福祉センター設立当初、職員の制服に手のひらを二つ重ねた握手をしているようなマークが付いていました。手話で「ともだち」という意味になります。  
センターのことをもっと知ってほしいという思いから新聞を作ることになったとき、そのマークの意味からとって「ともだち」の名前になりました。  


**Q. 「ともだち」はどこに置いてあるの？**

グリーンプラザ・市議会事務局・保健センター・教育センター・各文化センター・子ども家庭支援センター・市役所障害者福祉課／高齢者支援課・ふれあい会館など、福祉センターのことをたくさんの方に知っていただけるように、いろいろなところに置いてあります。お届けすると、「いつも楽しみにしているよ」と声をかけていただいています。  


### いままで、そして、これからの「ともだち」

「ともだち」では、福祉センター事業の紹介や行事の案内の他にもいろいろな内容をお届けしてきました。

**連載 What's 介護保険**  
第44～47号  
新しく始まる制度をわかりやすく解説。

**“おせち”を作ってみませんか？**  
第46号  
田作りや黒豆などのレシピを紹介。

**身障センター 何でもランキング**  
第59号  
貸出し図書、給食の人気ベスト3など。

**林家かん平師匠による「楽しい落語会」**  
第65号  
地域交流イベントで当事者にお話しいただいたリハビリ奮闘記。

これからも、福祉センターの「今」や役立つ情報をお届けしてまいります。  
150号、200号を目指して、今後とも「ともだち」をよろしく願いいたします。



# はばたけ! あゆの子 ☆☆☆ そつえん、おめでとう!!

年長児からあゆの子に仲間入りしました。一人で出来る事が少ないですが、歩行だけは出来るようになってほしいと切に願い日々通いました。今では歩ける距離も増え、以前からの夢だった母と子が手をつないで散歩することができました。あゆの子で過ごした時間は少なかったですが、たくさん成長できました。(結衣子・母)

あゆの子には、3年間通いました。当初、泣きながら通う姿に、親の方も泣きそうな思いでした。不安で気持ちが沈む日々の中、ゆっくりでも、ひとつひとつできることが増えて一歩ずつの成長でも喜びを感じました。今では親子で一緒に笑う毎日へと変わりました。(ゆうた・母)

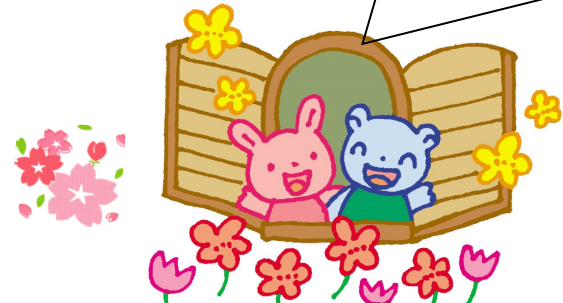
あゆの子に入園して最初の頃は不安もありましたが、少しずつ慣れて二年間元気に楽しく通うことができました。この二年間少しずつ成長していく姿が見られてとても嬉しく思います。これからいろいろ大変なことがあると思いますが、息子の成長を楽しみに頑張っていくと思っています。(涼太郎・母)

あゆの子に通って4年、本当にあっという間でした。始めは先生の背中にべったりな毎日でしたが、徐々に色々な活動に参加できるようになりました。まだまだ難しい事もたくさんありますが、これからも焦らずゆっくりと子供の成長を見守っていきたいと思います。(敬・母)

あゆの子に通い始めたときは、不安でしたが、3年間で人にやさしくしたり心配したり思いやりのある子に成長しました。会話も出来るようになり落ち着いて行動できるようになって毎日話したりお休みの日は一緒に外出したり楽しい事がたくさん出来ました。(あやの・母)

あゆの子で過ごした1年間、我が家のそれぞれが、いろいろな行事や交流会等を通じ、数多くの方々と出会うことができました。この出会いが、今後も障がいをもつ子を前向きに育てていくことや、受容することの過程において、私たち家族それぞれの支えとなると確信しています。(篠原桐子・母)

今年度は16名のお子さんが、あゆの子の通園を巣立っていきます。卒園を迎える保護者の方から、あゆの子での生活の思い出を一言ずついただきました。



通い始めた頃は、新しい環境に慣れずよく泣いていましたが、先生方に温かく見守って頂き段々と笑顔も増えて、二年間楽しく通うことができました。

あゆの子では、家とは違う積極的な面もみられ、いろいろ新しい発見や成長を感じられて、親としても幸せな二年間でした。(花音・母)

最初は、なかなか心を開かずいつもドアのそばで帰りたい様子だった楓馬…でも、だんだんと先生と関わりをもてるようになって楽しく通園ができたと思います。そのおかげか、大人は好きな存在になったようです。これからも好きな事が増える様に成長してほしいです。(ふうま・母)

あゆの子に通う前は、表情の乏しい子でした。それが今は、意にそわないと泣き、うれしいと喜び、そして元気いっぱいです。

最近では、ようやく人のマネをするようになり、少しずつですが成長を感じています。本人のペースに合わせ指導いただき、感謝の気持ちで一杯です。(楓奈・父母)

あゆの子には3年間お世話になりました。一度も嫌がることなく通えたのは、先生たちの温かい指導があったからだと思います。

これからも壁にぶつかる事もあると思いますが、あゆの子で教えていただいた事を活かして成長を見守っていききたいと思います。(和真・母)

三年間のあゆの子の生活を通して、できることも増え、お話も沢山してくれるようになり、とても成長したと思います。まだまだ不安な面も多々ありますが、何にでも挑戦しようとする気持ちを、これからもずっと持ち続けて欲しいと思います。(桃佳・母)

あゆの子には三年間お世話になりました。入園時は駐車場からの道のりも歩くことは苦手でしたが、先生方やお友達との生活の中で段々と成長して行きました。まだ言葉は出ませんが本人のペースで成長を見守りたいと思います。先生方、お友達、ママ友に出会えた事に感謝しています。(けい・母)

あゆの子の三年間を振り返ると、睡眠不足で寝たまま登所する事一年。パニックを起こしお迎えの時匠だけお部屋から出て来ない事も多々ありました。そんな事も今では懐かしい思い出です。親子共々支えて頂き有り難うございました。(匠・母)

「あゆの子は三月でおしまい。」と伝えた時、息子は驚きと寂しさが混ざったような不思議な顔をしました。卒園の意味は分かっていませんが、学校に行くことを楽しみにしています。私も、子供を見習って前を向き、新しい生活を始めたいと思います。(真之・母)

二才から通う事のできたあゆのこ。私達親子にとって、とても幸運なことでした。子供なりの、ゆっくりマイペースな成長ではありましたが、あゆのこで土台作りができたと思います。先生方、お母様方、今まで本当にお世話になり、有難うございました。(たいしゅう・母)

我が家の火薬庫、一平君。一度火が点くと次々飛び火で大爆発。おぎゃーと生まれた日からずっとそんな調子で疲れなかな?

でも、おうち以外の楽しい場所も増えてきた。小学校も楽しく通えたらいいね。また沢山のお友だちが出来たら楽しいね。(柘呑一平・母)

4月から ドキドキわくわく 新1年生!  
楽しいこと、いっぱいの 学校生活をおくってね!

程なくして、友達に誘われてM神宮に行きました。あんなに寒く大変な思いをしたのに、でも、その時は、松の内が過ぎていて、あまり混んでいなかったことと、友達と一緒にいたので、周りを見る余裕もあり、こんなに広かったのかと感動しながら、今年二度目の参拝をした。もしかして、あの喫茶店も混んでない時に行けば、今度は気持ちよく入れてくれるかな・・・?

**柘島剛之さん紹介**  
脳性麻痺による四肢体幹機能障害(両手足が不自由・電動車椅子を使用)昭和42年生まれ。平成11年より念願の一人暮らしを始める。当センター肢体不自由者当事者相談員(ピアカウンセラー)

今、府中駅周辺を再開発している。そんな中、今まであった店が移転したり、中には置んだ店もあるかもしれない。とにかく、大きく風景が変わっていつかいる。そのこと、関係あるのか・ないのかは分からないが、府中駅周辺で小さな喫茶店を見つけた。コヒー好きな僕は、入ってみたくはあったが、あまりにも間口が狭く(でも、なんとか電動車椅子が通れる幅はある)入るのを少しためらったが、思い切って店員さんに声を掛けられた。すると「ご免なさい、今、満員だから」と、やっぱり断られた。確かに、満員だった。誰でも店に入るのは無理なのだが、後から来た人達は、店の中に入って行った。僕は勝手に(もう、この店には来れないな)と、思ってしまった。

今年も始まった。最近、とくに時の流れが早く感じる。それはいいのだが、年が明けていきなり、少し遠くの神社で初詣をしたくなった。僕は、都心のM神宮に決めた。ある程度、人混みは覚悟はしていたが、寒さと予想以上の人の多さに(もう、一度と来ないぞ)と、思いながら、四時間かけて参拝した。

ま ち  
か ぜ  
街の風その 34  
かほしま 剛之  
柘島 剛之